

かけがわっ子ひろば 夏休みイベント特集 2

「かけがわっ子ひろば」では、夏休み後半のおもなイベントとして座禅と写経、流しそうめんなどが行われました。指導者はいずれも掛川地域力向上委員会のメンバー。

8月22日（月） 座禅と写経

定光寺にて和尚さんの手ほどきにより、保護者の皆さんも参加して座禅と写経を体験しました。



和尚さんから座禅についてのお話を聞く



静かな本堂で瞑想する



子どもに交じって座禅を組むお母さんたち



写経の心構えを和尚さんから聞く



精神を統一して写経に取り組む



8月29日（月） 流しそうめん

今年の流しそうめんは公民館を会場に行いました。

地域の有志が竹を半分に割って流しそうめんの樋を作りました。お母さんたちと一緒につくった鶏のから揚げを添えて、みんなで流しそうめんを楽しみました。



かけがわっ子ひろばの各種教室・講座

手話教室

8月29日(月)午後、流しそうめんのあと、掛川小学校で定光寺町の高村巖さんによる手話教室を行いました。

高村さんは、手話をみんなが理解し、障がいの一つの個性として認めていける社会になってほしいという思いから、各地でこのような講座の講師を務めておられます。



バレエ エクササイズ

かけがわっ子ひろばの活動のひとつとして毎週火曜日に掛川小学校の体育館でバレエエクササイズが行われています。講師は定光寺町の高村伸子さん。

高村さんによると、レッスンをすることでバレエの基本だけでなく、姿勢がよくなる、体が柔軟になる、心が豊かになるなどの効果があり、子どもたちも大変喜んで参加しているとのことでした。



ふるさと自然だより

下半田川町でシロマダラ発見

町内で見たこともない蛇を見つけたと知人が持ってきました。朝起きたら玄関先にいたといいます。別の知人に調べてもらったら夜行性のシロマダラという蛇で爬虫類しか食べないそうです。この地方では珍しい蛇だということで、その知人は冷凍ヤモリをペットショップで買い与えながら飼育しています。



体は細く長い

まちかどニュース

ニホンカモシカ逝く

下半田川町内では、かねてからニホンカモシカの目撃情報がありましたが10月14日の朝、日向川堤防に姿を現したところを撮影することができました。近



日向川堤防で座り込んだニホンカモシカ

づいても逃げようとはせず、その場で座り込む始末。立ち上がった後も足元がふらつき、どうやら衰弱している様子でした。そのうちに農業用水にはまり込んで身動きが取れない状態に。地域の人たちが助け上げて雑木林に置き放ちましたが、残念ながら翌日息絶えました。

国の特別天然記念物であることから瀬戸市が引き取り、火葬にされました。

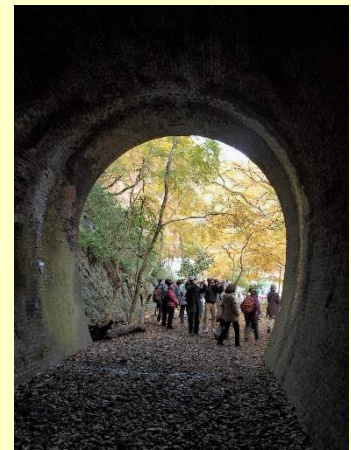
愛岐トンネル群 国文化財登録記念 講演会が開催されます



村上真善氏

日時 2016年12月10日(土)午後2時 開演
会場 掛川小学校体育館
演題 「地域の産業遺産 ただいま再生中 -めざせ・さくれ 地域の光-」
講師 村上真善(むらかみ まさよし)氏
NPO 法人 愛岐トンネル群保存再生委員会事務局長
主催 掛川地域力向上委員会

村上さんは新聞社勤務の後、春日井市内で地域情報誌の発行と街づくりの活動をされ、近年は、旧中央線の愛岐トンネル群を自ら発見し、その再生と保存、さらに活用をめざした活動をされています。ナショナルトラスト運動によって、2014年にトンネル群を買収し、今年、トンネル群が産業遺産として国登録文化財に認定されました。掛川公民館主催の愛岐トンネル見学会では、村上さんのユーモアあふれる名ガイドのお世話になっています。私たちの地域力向上活動に示唆をいただけるようなお話が聴けると思います。地域のみなさん、ぜひ会場に足を運んでください。



学習田の稲刈りと脱穀



10月7日(金)、掛川小学校学習田で全校児童による稲刈りが行われ、刈り方や稲架かけの仕方などを教わりました。

1年生は初めての体験ですが、高学年は手慣れた様子で作業を進めていました。

子どもたちは学校サポーターの方から稲10本からごはん茶碗に約1杯分の米が取れることを教わりました。作業後、地域の人



に米作りについての質問をする子もいました。10月20日(木)の全校児童での脱穀では、足踏み脱穀機や、とうみを使った



昔ながらの農業と、ハーベスタを使って機械化された農業を体験しました。

もみじ と かえで

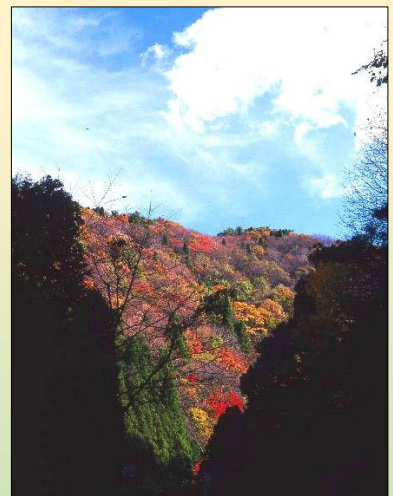
秋の夜長に子どもさんやお孫さんといっしょに頭の体操をしてみませんか。

もみじ 高野辰之 作詞

あきのゆうひに てるやまもみじ
こいもうすいも かずあるなかに
まつをいろどる かえでやつたは
やまのふもとの すそもよう

左はおなじみの唱歌「もみじ」の歌詞（一番）です。

- ① 詩の中の「まつ」を漢字ではどう書きますか。
 - ② 題名の「もみじ」と歌詞の中の「かえで」は同じものですか、それとも違うものですか。
 - ③ 題名の「もみじ」を漢字ではどう書きますか。
 - ④ それでは、この歌はどんなことを歌ったものですか。
- ⑤ 最後の問題です。「てるやまもみじ」のところで、照っているのは「山」ですか、それとも「もみじ」ですか、それとも「やまもみじ」ですか。
- 「もみじ」は小学校3年生か4年生で習います。ところが、「もみじ」の意味をよく知って歌っている人は意外に少ないのではないかという気がします。
- ・ つまり、この歌の「もみじ」を“もみじ”という名の植物を指していると思っている人が、かなりいるのではないかということです。子どもよりむしろ大人のほうに多いのかもしれない。
 - ・ まず、「もみじ」とは秋になって植物の葉が赤や黄色に色づくことまたは色づいた葉の総称であるということを理解しておく必要があります。
 - ・ 「もみじ」は確かに「かえで」という植物の別称で呼ぶことはありますが、歌のタイトルに「もみじ」とあって、歌の中にはわざわざ「かえでや…」と出てくることから、ここではモミジというひとつの樹種名を指しているのではないことは明白です。ちなみに、紅葉する木の最も代表的なのが“かえで”なのでいつの間にか「かえで」を「もみじ」とも呼ぶようになったものです。また、かえで（もみじ）はもともとカエデ科の樹木の総称であって本来は特定の樹種名ではありません。
- さて、「秋の夕日に照る山もみじ…」のくだりです。照っているのは「山」なのか「もみじ」なのか、それとも「やまもみじ」なのでしょう。（上記⑤の問題）
- ・ この歌は高野辰之が明治の末期に作詞したのですが、とぎすまされた感性で一つ一つの言葉のもつ意味をじっくり吟味しながらつくられたはず。それを考えると、ここはどうも「^{やまもみじ}山紅葉」が夕日に照っていると解釈したくなってしまいます。つまり「照る／山紅葉」です。考えすぎでしょうか。ちなみに、^{やまもみじ}山紅葉とは山の木々の葉が紅葉した状態を指し、草原の草が紅葉したものを^{くさもみじ}草紅葉といいますが、^{くさもみじ}草紅葉は秋の尾瀬ヶ原が有名です。
 - ・ 「照る山／もみじ」だと、照っている山と後に続く「もみじ」との間の脈絡がなくなってしまうようにも思えます。「いや、詩だからこのような表現もあり得る」という意見もあるでしょう。みなさんはどう思われますか。
 - ・ 一方、「ヤマモミジ」という樹種があることも事実です。これは日本海側に自生するカエデの一種ですが、それほど一般的でないヤマモミジをわざわざ唱歌としてとり上げているとは考えにくいですね。
- （①～⑤の答えは6ページ末に）



やまもみじ
蛇ヶ洞の山紅葉

会員の声

掛川小学校の思い出

定光寺町 瀧本広男

瀧本さんは、昭和42年3月に掛川小学校を卒業されています。当時の複式学級の思い出を寄せていただきました。

掛川小学校は、私が在籍していた当時から県下でも数少ない複式学級で、中学校は域外就学により隣接する春日井市と多治見市の学校に通学していました。

こうした教育環境は県下でも特異な例でしたが、当時はそれが当たり前のこととして学校生活を過ごしていました。小学校での生活は小規模校の長所である児童同士が親密な関係にあり、学校としての集団活動が数多く行われ、楽しい毎日だったと記憶しています。

しかし、そのように対人関係が固定化され、家庭的な環境から急に大規模な中学校へ通学することは、定光寺坂の上り下り、電車通学といった通学方法や入学時の他校との友人関係など、環境の変化への戸惑いも大きく、中学校生活に慣れるのに苦労したことを覚えています。

後年、春日井市教育委員会に配属となった時、たまたま掛川小学校児童の域外就学の事務に携わることとなりましたが、通学で毎日上り下りした定光寺坂な

どの情景が思い出され懐かしく感じたものでした。

昨今、児童数の減少化が問題となっていますが、それに伴い適正規模での学級編成ができないという理由により、学校の統合が検討されるようになってきました。隣の春日井市においてもすでに高蔵寺ニュータウン内の小学校において統合がなされています。そうした大きな動きのなかにあって掛川小学校は創立が古く、その歴史的背景から「われらの学校」として定光寺、下半田川両地区の地域生活のなかに深く入り込んでいます。

自分自身が老年期になり、愛犬との散歩で小学校を訪れるたび、小学校の存在が地域の連帯、過疎化、地域力等に大きくかかわっていることを、よりいっそう感じるこの頃です。



瀧本さんが通っていた当時の掛川小学校

定光寺町の祭祀(民間信仰) 多度大権現

水飢饉の年は必ず雨乞いが行われました。氏神様に村中の人が集まり千度参りをして祈



願し、それでも雨が降らないときは伊勢のお多度様までお参りに行きました。それ以来、雨乞いの神様として伊勢のお多度様の分霊をお迎えし、祀ったようです。東島の田平から半ノ木に通じる林道脇に祀られています。(柴田昌乃)

「もみじとかえで」の問題(5ページ)の答え

- ① 松
- ② ここでは、「もみじ」は木々が紅葉している様子を、「かえで」はカエデ科の植物を指し、別々のものとしてうたっています。詞の中に出てくるかえではその代表格であるイロハカエデを指しているのではないかと思います。
- ③ 紅葉(ちなみに、カエデは「楓」と書きます。)
- ④ 秋の夕日のなかで、燃えるように輝く紅葉の赤や黄色を山裾の松の濃い緑色と対比してとらえ、そのえもいわれぬ美しさに感動してうたったもの。
- ⑤ 照っているのは「山」なのか、「もみじ」なのかそれとも「やまもみじ」なのか、皆さんはどう思いますか？
ちなみに、「照る」は「輝く」の意味もあります。

※ 高野辰之は、碓氷峠にある信越本線熊ノ平駅(現在は廃線)から紅葉を眺め、その美しさに惹かれてこの詞を作ったといえます。